

8/17 sun. 神戸ワールド記念ホール

Novelbright

バンド初のアリーナツアー完遂！
最高の家族、同志と作った特別な日

キャリア初のアリーナツアー【Novelbright ARENA TOUR 2025～Winding Road～】は8月17日、神戸ワールド記念ホールでファイナルを迎えた。しかも5年前にメジャーデビューを果たした同日とあって、いつも以上に過去から現在、未来を見つめる5人の姿があった。

仲間と音楽の力があれば困難や挫折も笑って乗り越えられる…そんなメッセージを感じる映像から、それと呼応する今年1月発表の『ワインディングロード』でライブが幕開け。温かみのある光が放たれ、竹中雄大(Vo.)の最強ミックスボイスが一気に高揚感へと連れていく。続いて派手な火柱の演出に歓声が上がった『開幕宣言』やシンガロングが湧き起こった『Morning Light』と人気曲が投下され、スクリーンに映るメンバーのこの上なく楽しそうな表情と相まってオーディエンスの熱量も増すばかり。

さらに熱気を上昇させた2019年発表のパーティーチューン『フォーリン・ヴィーナス』、切れ味鋭いねぎ(Dr.)のドラムビートに攻撃的な圭吾(Ba.)、挑発的な沖聰次郎(Gt.)と情景的な山田海斗(Gt.)の演奏が重なるスリリングな『INST(2025ver)』と新旧振幅の大きい楽曲で魅せながら、ロングトーンで聴く者の心を震わせた『seeker』からアカペラで始まった『ツキミソウ』では繊細かつ深淵なる歌声で空間を圧倒。先に歌われた『夢花火』と共に雄大のボーカリストとしての真髄を実感する。

終盤に差し掛かり、ハッピーな『Okey dokey!!』から客席一体に揺れる旗が鮮やかな景色を描いた『青春旗』、次ぐ『Walking with you』まで好対照のギタリスト2人を擁するバンドらしい強靭ギターロック曲にしてライブアンセムを連投した後、言葉を紡ぎ始めた雄大。本ツアーアー中に見舞われた喉の不調と、その際に初めて感じた不安と恐怖、それを支えてくれた人々。当たり前の日常への有り難みの中で、この5年を振り返って気づいたのは「俺らめちゃめちゃええバンドやなって。もちろん喧嘩もするけど、ねぎくんとバンドを組む時に誓った家族みたいなバンドをやろうっていう約束が今叶えられてると思う」と胸を張った。同時に、目の前の人たちをはじめ、そんな今をくれる存在を「ファン」ではなく、同じ夢を追う「同志」と表現。「いつもたくさん助けられています。だからみんなが辛い時は僕に助けさせてください。Novelbrightはずっと家族みたいなバンドをやり続けて、みんなに幸せを届けるから。一緒に最高の夢を見て、掴んでいけたらなと思います」とあふれる想いを伝えた。「ラストはみんなにとっての、俺らにとってのお守りになりますように」と捧げた『カノープス』。そして、銀の紙テープが舞い、祝祭感に包まれ本編を終えた。

雄大の想いはアンコールでも余韻を残し、「(個人的には音楽で)5人が飯食えてればいいと…うん、マジで良いバンドだと思います」という圭吾に、「泣いちゃうよね。でもバンドって大変で…」と声を詰まらせるねぎ。その様子に雄大は「圭吾の言う通りだけど、やっぱり夢叶えたい！」まず

SET LIST

- | | |
|----------------------|------------------|
| 01. ワインディングロード | ENCORE |
| 02. 開幕宣言 | 01. スタートライン |
| 03. Morning Light | 02. Call me |
| 04. ラストシーン | 03. Awesome Life |
| 05. Everywhere I Go | |
| 06. フォーリン・ヴィーナス | |
| 07. 愛とか恋とか | |
| 08. ライフスコール | |
| 09. Turn Back Time | |
| 10. アイビー | |
| 11. 夢花火 | |
| 12. ふたつの影 | |
| 13. INST (2025ver) | |
| 14. Revive | |
| 15. Empire | |
| 16. seeker | |
| 17. ツキミソウ | |
| 18. Okey dokey!! | |
| 19. 青春旗 | |
| 20. Walking with you | |
| 21. カノープス | |



はドームやな」と旗を振り、「6年目の新たな始まりに」と『スタートライン』を奏でた。特別に初披露された新曲『Call me』を届けるとラスト曲『Awesome Life』ではフロアに降り立つサプライズパフォーマンスも。最後はいつも通りドラムセット=ねぎの前に集まり、目を合わせた5人。2026年にかけての5周年イヤーは盛大な活動を宣言しているだけに、まずは次に届く「幸せ」を楽しみに待ちたい。

